

事業所の概要表

(平成 30 年 6 月 1 日現在)

事業所名	グループホームふうさんのおうち					
法人名	有限会社やわらぎ					
所在地	松山市久万ノ台137番地6					
電話番号	089-989-7121					
FAX番号	089-989-7122					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 13 年 12 月 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (2) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 9 人			
利用者人数	9 名 (男性 3 人 女性 6 人)					
要介護度	要支援2	1 名	要介護1	2 名	要介護2	2 名
	要介護3	1 名	要介護4	2 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	4 人	1~3年未満	3 人	3~5年未満	2 人
	5~10年未満	人	10年以上	1 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 2 人			その他 ()
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	千舟町クリニック、山下消化器外科クリニック					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,000 円					
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円					
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
食材料費	1日当たり	1,030 円	朝食:	230 円	昼食:	400 円
	おやつ:	円	夕食:	400 円		
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()					
その他の費用	水道光熱費	10,300 円				
	共益費	5,200 円				
	.	円				
	.	円				

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間					
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間					
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間				
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員	<input type="checkbox"/> 評価機関関係者		
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者	<input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民		
	<input type="checkbox"/> 利用者	<input checked="" type="checkbox"/> 法人外他事業所職員	<input type="checkbox"/> 家族等			
	<input type="checkbox"/> その他 ()					

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成30年6月27日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	5	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	1		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870103953
事業所名	グループホームふうさんのおうち
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	力石まさみ
自己評価作成日	平成30年 6 月 1 日

【事業所理念】※事業所記入 ○かけがえのない人生の終盤期を住み慣れた地域で暮らし続けることができるように支援します。 ○人間としての尊厳を大切に、自己決定権と個性の尊重に努めます。 ○毎日がイキイキワクワクと過ごせるよう工夫と努力をします。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ・楽しみのある生活を送れるようにする。 ・アセスメントを活用し、したい事、楽しみ、してほしい事を探り、主に外出支援に取り組んでいる。月一回どこへ行きたいかを聞き利用者で相談していただき決めている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 外出先の希望を聞き支援している。「本を買いに行きたい」と希望があれば、その日のうちに出かけられるよう支援している。ドライブや外食、喫茶店などへの外出希望も支援している。温泉が好きな利用者は、職員と一緒に温泉に出かけ、運営推進会議で取り組みを報告した。 家族が毎月15日に歌の会を開いてくれており、他の家族も一名参加している。 代表者は、スタッフ会に毎回参加して、職員の意見を聞いている。
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	ケアプラン作成時に本人、家族に聞いている	○		○	本人から今の楽しみや今の不安や苦痛、生活上の希望を聞きメモをしている。把握が困難な場合は、入居時や介護計画の見直し時に家族に聞いている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人に直接聞いたり家族に聞いている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	来訪時に伺っているが全員ではない				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	月一回のスタッフ会で話し合い、記録に残している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	「どうしたいんですか」と聞くようにしてみる				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	過去の記録を見直して情報を取り入れている			○	本人の趣味、職業、性格を聞きメモをしている。病院を退院後に入居となるケースが多く、病院からも情報を得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	気づいたことは介護記録や連絡ノートに記入し把握できるよう努めている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	介護記録や申し送りで情報を共有している				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	朝の申し送り時に話し合っている				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録を活用している				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	スタッフ会で検討している			○	月一回のスタッフ会時に話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	スタッフ会で話し合っている				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	毎月モニタリングをしている				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人、家族、職員に聞いている				モニタリング表に、主治医や家族、その他サービス提供先からの意見を書く欄がある。それらの情報を反映して計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族、本人より意見を聴き、そのうえでスタッフと話し合っている	◎		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	アセスメントを参考にしたり、家族の意見を取り入れている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちとの協力体制がまだできていない				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	職員によってばらつきがある			△	ひとつのファイルに全員の介護計画をまとめ、職員が記録を書く場所に置いている。また、ケース記録にも介護計画を挿入しているようだが、把握、理解という点からは職員に個人差があるようだ。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月モニタリングを行い評価し検討している			△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に記入している			×	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個人のケース記録を作っている			×	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。	○	6ヶ月に一回行っている			◎	一覧表を作り見直し時期の管理をしている。スタッフ会時に、次の更新が必要な利用者を確認している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月のスタッフ会で話し合いを行っている			◎	スタッフ会時に、モニタリング表などをとりに現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	退院時には検討している			○	退院などの状態変化があれば見直しを行うが、この一年間では事例がないようだ。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	朝の申し送り時に必要な時は話し合っている			○	月一回スタッフ会を行っている。朝の申し送り時に話し合っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	何でも話し合え、相談できる関係を心掛けている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるように開催日時や場所等、工夫している。	○	会議は事務所で夜間行っている夜勤のスタッフは交代し意見を言う場を設けている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作成し読めばサインしている			△	スタッフ会の議事録を作成しているが、欠席職員が議事録を確認することは任意となっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	連絡ノートを作っている確認したらサインをしている			◎	連絡ノートは、誰に向けての連絡かわかるよう記入欄を設けている。家族からの伝言や利用者の身体状態はイラストで分かりやすく工夫していた。内容を確認した職員はサインをしていた。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	連絡ノートを作り確認のサインをしている	○			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者の希望を尊重し本人の思いを大切にしている				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定の場を日常的に持つことで本人の思いを大切にしている			◎	昼食前に、「1階の庭に出たい」と希望する利用者があり、職員は、今すぐ行くか、昼食後に行くか、本人に聞いていた。他にも「どうする？」と本人が決められるよう、訊いている場面が何度もみられた。
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	説得ではなく納得を待って介護をしている				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	食事、入浴に関しては時間、入浴日を決めている				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	何かしたいですか、どうしますかと伺っている			○	食器を運んだ利用者に「ありがとうございます」と声を掛けていた。車いすの利用者が立つ時に「頑張ってる」と言ってサポートしていた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	声掛けしうなづかれたり、表情によって				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	時々なれなれしい言葉を使うことがある	◎	○	○	事業所内研修時にプライバシーについて勉強をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	遠くより声をかけたり、排泄の確認をすることがある			○	トイレへの声かけは、個々にあわせて、小さな声でゆっくり行ったり、耳元で行ったりしていた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	トイレの戸を開いたままの時がある				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	利用者によってばらつきがある			△	一声かけてから入室する場面もあったが、自由に出入りしている様子も見受けられた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し守っている				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	食器拭きや洗濯物たたみ、自室の掃除等していただける。ありがとうございますと伝えている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	食事やおやつの声掛けをお互いして下さっている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする。孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	○	仲の良い話やすい利用者同士を同じテーブルに配置している			○	よく話をする人同士が同じテーブルになるよう配慮していた。食事中、隣席の人にティッシュを取って渡してあげるような場面があった。昼食後、隣席の人と一緒に食器を重ね、歩行できる人がまとめて下膳していた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が中に入り話題を変えたり外出に誘ったりしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントに記入している				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	×	まだ把握できていない				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	出かけていくことはできなかったが、来訪はしていただいている人もいる				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	いつでも自由に来訪していただけることを伝えている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者、家族の希望も多いので取り組んでいる。外に出る努力をしている	○	○	◎	外出先の希望を聞き支援している。「本を買いに行きたい」と希望があれば、その日のうちに出かけられるよう支援している。ドライブや外食、喫茶店などへの外出希望も支援している。温泉が好きな利用者は、職員と一緒に温泉に出かけ、運営推進会議で取り組みを報告した。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	できていない				○ 車いすの利用者も近くを散歩したり、買い物に行けるよう支援している。調査訪問日にも、職員が車いすの利用者に「散歩に行く？」と聞いて支援していた。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	外に出て外気に触れることに努力している				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族や知人と行けている方もいる				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	申し送り時やスタッフ会で話し合っている				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	心身の状態をよく観察しながらマッサージをしたり体操をしている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できることはしていただくようにしている	○			
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	会話の中で本人から聞いたり家族に聞いたりしている				○ 昔トリアスロンをしていた声の大きな男性利用者が体操の号令をかけている。利用者の中には、ポットのお湯を毎日入れ替えてくれる人や広告でゴミ箱を折って、さらに分別できるようプラスチック用と書いてくれる人がいる。調査訪問日には、玄関の花の水やりを職員と一緒にしていた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	本人の得意とすること、体操の号令、雑巾作り、折り紙等をしている	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	事務所の夏祭りに参加していただいたり、近くの保育園との交流もある				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	本人に選んでもらっている				○ 食事時には、テーブルにティッシュを置いており、口の周りの汚れを職員がさりげなくティッシュで拭いていた。男性利用者の髭を職員が剃っている様子がみられた。 ○ 季節に合った洋服を着て過ごしていた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	本人に聞いている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	明るく楽しくなるようなものをできるだけ選んでいる				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	本人に選んでもらっている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声掛けし居室で更衣したりさりげなく伝えている	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	訪問理容の方にしていただいている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	今までのヘアスタイル、好みの色等を家族に聞いている			○	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 し た 理 由・ 根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実 施 状 況 の 確 認 及 び 次 の ス テ ッ プ に 向 け て 期 待 し た い こ と
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は大事であるという事は理解できている				調理担当職員が献立を立てており、利用者には、朝食のパンは何パンがいいかなど希望を聞いている。じゃがいもや人参、玉ねぎの皮むき、また、ぎょうざづくりなどを一緒に行えるよう支援している。昼食時には、自分でお茶を運んだり、下膳や食器拭きを行う様子がみられた。 アレルギーや好み、苦手な物は日頃の会話から把握しているようだ。 箸と湯のみはそれぞれ自分のものを使用している。器は事業所で用意している。 職員は、少し遅れて同じテーブルで利用者と話ししながら同じものを食べていた。 対面式の台所で、居間から食事をつくる様子が見える。また、においがしていた。 職員同士の会話の中で「野菜が少なかった」「肉が続いている」など口頭で話すことがあるが、定期的に話し合う場は設けていない。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	△	ジャガイモの皮むき、食器拭きはしていただいている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	毎日、日課としていただいている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居時に聞いたり会話の中で話題にし把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって普なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の野菜を使うようにしている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	見た目の良い器に盛るようにしている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	好みの物を持ってこられており、それを使っている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	できるだけ一緒に食べられるよう努めている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	ホームで作っており、食材を伝えて食べていただいている	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	水分量、食事を記入して少ない時はおやつで補充している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	少ない時は好きなものを食べていただいている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	職員でその都度聞いている			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	ふきんはハイター消毒をし、食材は国産で新鮮なものを選んでいる				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解しており実施している				義歯の有無や自歯の状態はアセスメントシート2で把握している。さらに、虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等について把握する取り組みに工夫してほしい。 屋食後、自分でコップを持ち、うがいしたり、職員と一緒に歯磨きしたりする様子がみられた。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	舌の状態は把握できていない 義歯の状態は把握できている			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	往診時に正しい方法を聞いたりしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	見守りしうまくできるよう支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	声掛けし、していただいている できないことは支援している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	△	往診をしていただいている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	すぐにオムツになってしまうことがある				おむつを使用することで便が出にくい人について、スタッフ会で話し合った事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	不穏の原因の一つに便秘であることは理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	記録し共有している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレ誘導することにより排泄の訴えがアイトイレで排泄できるようになった	○		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	意見を出し合って検討している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間をみて声掛けを行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	日中は紙パンツを使用するようにし、夜間はオムツを使用している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者に合わせ行っている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	食事、水分、運動が大切であることを説明し取り組んでいる				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めず、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	曜日は決めているが時間は合わせている	◎		○	一番風呂の希望や長さ、時間帯の希望などに応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	ゆっくりと本人のペースで入浴していただいている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分でできる事はしていただき、後でできないところを支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入りたくなるような声掛けを心掛けている				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタル、顔色等確認している				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送りして把握している				入居前から睡眠導入剤や安定剤を服用している利用者が複数いる。スタッフ会でも話し合い、運動したり、足浴したりして安眠できるよう工夫している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	職員間で相談し日中の活動を検討している				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	医療と連携して支援し、介護のできる事をするよう努めている			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	いつでも居室に戻り、休んでいただけるようにしている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	携帯電話を持っている方もいる 手紙を出すときは投かんを頼まれる				対角線
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	家族より手紙が届いたら、返事を書くよう勧めている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	訴えがあれば、いつでもかけられる状態である				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いたらすぐに手渡している				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族にお願いしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	買い物に行ったときは、自分で支払ってもらっている				/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	希望があれば、2・3日中には行けるよう努めている				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先の理解や協力は働きかけていない				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	こづかいとして預かっており、買い物に行ったときは自分で払ってもらおうようにしている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	こづかいとして事務所で預かっている 本人の希望があれば使っている				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理規定を作成し、出納帳を毎月確認してサインをもらっている				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	H30.5.1より外部受診、個別外出支援を取り入れた	◎		○	受診は、職員が付き添い支援している。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	日中カギはかけておらず自由に出入りしてもらっている	◎	○	○	建物の玄関前にはいろいろな種類の花を植えていた。事業所は、住宅街に在り、建物の2階に位置するため、初めて訪れる人には場所が分かりにくいのではないかと。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気やそくような敷えになっていないか等。)	△	まだ工夫や改善が必要である	○	◎	○	居間のテーブルには、季節の花を飾っていた。ソファを配置している。金魚を飼っている。写真アルバムを入れた本棚があった。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	毎日利用者と一緒に居室の掃除をしている トイレは使用後確認をするようにしている			△	気になる臭いはなかった。 廊下や居間の天窓から自然光が入り明るい。 食器を洗う音が気になった。慣れた音かもしれないが、この機会を活かし、日常音について利用者の立場で点検してはどうか。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	季節の花を飾るようにしている			○	調理している音やにおいがする。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	△	利用者の居室で話を楽しく過ごされる方もいる				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	×	できてないので検討して改善していきたいと思えます				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	今まで使っていた物や大切にしていた物を持ってきていただいている 家族の写真を置いている	○		○	自作の花飾りを置いていたり、習字作品を貼ったりしていた。 仏壇を持ち込んでいるところもあった。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	シルバーカーを使用し自由に歩かれている 廊下やトイレに手すりを配置している			○	居間からトイレの場所がわかるように、大きい太赤文字で表示している。 それぞれの居室には、本人の目線に合わせた位置に職員手作りの表札を付けていた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	利用者の入り口には名前を書いている				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	ご自宅から持ち込まれている方もおられる				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	充分理解している	◎	◎	◎	身体拘束の勉強会で拘束の弊害について学んでいる。 2階出入り口、1階玄関は日中は鍵をかけていない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族にも理解してもらっている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	外に行きたいときは付き添って出かけている				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	記録していつでも見ることができるようになっている				/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	いつもの違うと感じたときは記録に残している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	24時間対応の医療と契約している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	希望を聞いている	○			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族に相談し決めてもらっている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	その都度報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には同行し必要な情報を提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中も面会に行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	お互いに情報を伝えている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週一回の訪問時に相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間対応の訪問診療を受けられる体制にしている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタル測定をし記録している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬情を読んで確認をしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	二人で確認している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	申し送り時に確認し何かあれば往診時伝えている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	変化があれば報告、相談し記録に残している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	1年に1度話し合いをしている				入居時と、その後は1年に1回、看取り・重度化のあり方(看取りの場、緊急時の対応)について本人・家族の希望を聞いている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	話し合い記録に残している 希望を医療機関に伝えている	○			
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	まだ職員一人一人との話し合いはできていない				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	説明し理解を得られている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	看取りの指針を作成している				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	家族の思いを聞いている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	感染症予防の研修が年1回あり学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	予防や対応の取り決めはあるが訓練はできていない				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	情報を入手した場合は職員で共有している				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	その都度対応している マスク着用、うがい等				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	△	来訪者に対して何もできていない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	来訪時に食事介助やトイレ介助を手伝っていたりもする				事業所の外出や行事参加の案内は、請求書に同封している。参加者は少ないようだ。家族が毎月15日に歌の会を開いてくれており、他の家族も一名参加している。 来訪時に口頭で報告している。来訪が少ない家族には、管理者から電話して様子を伝えている。 管理者の異動は文書で報告している。職員の異動は来訪時に報告している。開設以来、設備の改修・機器の導入は行ってないようで報告した例がない。 来訪時には、お茶を出し、その時に、「いつでも相談してください」と声かけをしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会は自由でお茶を出しゆっくりと過ごしていただいている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族の方が月一回歌の会を開いてくださっている	○			
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。〔「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等〕	△	来訪時には様子を伝えているが来訪できない家族にはできていなかった	◎			
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	家族より相談、質問があり対応している				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族にできる事ははしていただいている(通院、買い物など)				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	その都度報告している	◎			
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	夏祭りや餅つき等行事の案内をしている				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	×	まだできていない				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時は必ず声掛けをしている、意見は共有している				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に説明し契約書を作成している				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	長期入院がほとんどである				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	文書で理由の説明もしている				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	できていないと思う		○		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	夏祭り、防災訓練、市民大清掃に参加できた	◎	○	地域の夏祭りや運動会に利用者も一緒に参加できるよう支援している。地域の防災訓練や市民大清掃には職員が参加している。年末の餅つきで焼いた餅を近所に配った。近所の保育園との交流がある。中学生が朝顔を持ってきてくれた。	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	あまりいない				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	今後検討していきたい				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	ほとんどできていない				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	できていない				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	できていない				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	今後検討していきたい				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者、地域の方の参加は得られている(家族はない)	○		△	併設小規模多機能事業所と合同で行っている。利用者は毎回1～2名参加している。民生委員やボランティアの参加もある。家族に案内状を送付するが、参加はない。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	報告はできている			△	利用者の状況や行事について報告を行っているが、評価への取り組み報告は行っていない。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	結果の報告はできていない			◎	×	事業所についての意見や提案は出ていないため、サービスに活かしたり、その後報告したりするような取り組みは行っていない。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	時間帯については聞いている			○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	いつでも見れるところに置いている					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	利用者一人一人の思いをかえられるよう取り組んでいる					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	事務所の前に掲示している	○	○			
42	職員を育てる取組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	本人の希望も踏まえ取り組んでいる					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	チャレンジシートを作成し個々の目標を立て資質のレベルアップをはかる					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	自己評価を提出しこれを基に施設長との面接がある					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会の相互研修を利用している					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	休み希望を優先できる体制をとっている	○	◎	○		代表者は、スタッフ会に毎回参加して、職員の意見を聞いている。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	やわらぎ研修の項目にあり3分間研修で読んでいる					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝、夕の申し送り時にその日の勤務者で話し合う場をつくっている					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	報告するようにしている					事業所内研修で勉強をしている。マニュアルはない。職員は、行為を発見した場合はリーダーや管理者に報告することを認識している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	お互いに注意しあっている					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	指針を作成している					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	スタッフ会で話し合う時間をとっている					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	部屋にカギはないことと家族からの要望はない					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	パンフレットはあるがまだよくは理解できていない					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	成年後見制度の利用をされた方もいる					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	上記と同じ					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルは作成し周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	研修は受けたがまだ充分とは言えない				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	記録しその後検討している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	△	まだ充分とはいえない				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	できていない				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	職員間で話し合い、医療機関、家族に相談した				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	納得のいく話し合いはできず、行政等にも相談はした				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	いつでも相談できることを伝えている				運営推進会議に出席する利用者は機会がある。しかし、意見はあまり出ないようだ。その他の利用者には、いつでも相談できることを会話の中で伝えている。 運営推進会議に家族の出席はない。来訪時に口頭で、いつでも相談できることを伝えている。 スタッフ会で意見を聞くようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	上記と同じ	○			
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	相談窓口の場所と連絡先を記入し渡している				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	月一回のスタッフ会に参加している				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	スタッフ会で自由に意見を出してもらっている			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	前年度はできていない				評価結果と目標達成計画は報告していない。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	意識の統一がはかれていない				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	できるよう検討し取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	できていない	○	◎	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	効果の確認ができていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	風水害のマニュアルは作成している				年2回、消防署の協力を得て併設事業所と合同で防災訓練を実施している。運営推進会議時にその様子を報告している。参加者から「災害時には地域の方に応援に来ていただけたらどうか?」と提案があったが、その後進展していない。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	昼間を想定しての訓練のみであった				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	×	まだ充分にできていない				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	地域の方の協力体制ができていない	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	できていない				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	できていない				相談支援する取り組みは行っていない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	できていない		×	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	できていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	できていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	他の事業所の運営推進会議に参加させてもらった 包括、医療機関の研修に参加した			○	運営推進会議時に、協力医療機関の協力を得て緊急時の対応についての研修を行った。